

2016年8月
1110号

百葉

Manyok

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5
(一冊の会研究室)

～「2015年国勢調査から見えたもの」～

一冊の会副理事長・静岡大学名誉教授
馬居政幸先生ご講演

第2章 51期 8回目の櫻華塾を8月21日、尾崎財団の応接室で開催しました。今回の講師は、一冊の会副理事長・静岡大学名誉教授の馬居政幸先生。この日を心待ちにされていた方も多かったのではないのでしょうか。馬居先生には、ちょうど2年前一冊の会事務所にて、講演をして頂きました。第21回 FAWA 総会のホスト国、韓国について現状や文化を学び、国際会議に向けての心構えを確認致しました。ともに女性の地位向上という目標を持つもの同士、異文化の相互理解が大切だと感じました。今回は第22回 FAWA シンガポール総会を来月に控え、少子高齢化や女性の社会進出に関して、考えさせられる数々のお話を頂きました。

馬居先生の講演に先立ち、今回初めて櫻華塾に参加された、IEO(国際交流団体)理事長の佐藤容代さんに、尾崎行雄と楠瀬喜多の「人権紙芝居 DVD」をプレゼント致しました。佐藤さんは、FAWA 事務局長の三坂さんのご尽力により、来月の FAWA シンガポール総会にも一冊の会とともに日本代表として参画されます。IEO として8名初参加です。

【忘れな草グループ長 富永さんより TICAD をむかえて感じること】

富永さんより、初めてアフリカの地、ケニアで開催される第6回 TICAD へ向け感じることの発表がありました。第2回櫻華塾で佐藤大使、第7回櫻華塾にて佐藤大使夫人のお話を受け、アフリカに思いを寄せ支援をしていく決意のお話がありました。このグループの地道にコツコツと識字推進に寄与する行動力には頭が下がります。中心者の富永さんの実践力と持続の信念を私共も見習って参りましょう。

【FAWA 事務局長 三坂さんより シンガポールについて】

三坂さんより、第22回 FAWA 総会の開催国、シンガポールについてのレクチャーがありました。おすすめの本もご紹介頂きました。いよいよ1ヶ月後と迫り、参画メンバーは一致団結し、無事故での大成功に向け、準備を進める決意です。

【大槻会長より 東北支援 102 回目を迎えて】

東北への被災地支援がついに102回となりました。今回は大槻会長、小山副会長に加え若手の山内さんも、東北へ馳せ参りました。「心の絆大作戦 ハンカチ支援プロジェクト」について提案したところ、快く承諾して頂きました。宮城県山元町「アップルグループ」、福島県相馬市「磯部グループ」の櫻華塾の出発式も執り行われました。

【馬居先生ご講演 「2015年 国勢調査から見てきたもの」】

そしていよいよ、一冊の会副理事長・静岡大学名誉教授、馬居先生の講演です。馬居先生にも、尾崎行雄と楠瀬喜多の「人権紙芝居 DVD」をプレゼント致しました。

「2015年 国勢調査から見たもの」と題し、人口減少先進国日本を克服するにはと、現在の日本が抱える社会問題と、最新情報を交えいち早く私たちにお話下さいました。

少子高齢化により、日本は人口減少が本格化しています。問題は思っているよりも深刻で、人口構成の変化により、家族のあり方、産業構造など社会システム自体の転換が求められています。

しかも、転換の時間は限られています。現在 60 代後半の団塊の世代が 75 歳(後期高齢期)になるまでの時間しかありません。それを馬居先生は 2025 年問題とのこと。高齢化率が 30%を超えることに着目して、2030 年問題という見方もあります。どちらにせよ、10~15 年の範囲内で、社会システムを大きく変えざるを得ない状況に、我が国日本が立たされているということです。しかも都会の高齢者はこれから増えていくと、馬居先生は語られました。高齢化対策も、特定の世代を対象に問題解決を図ってきました。しかしこれからは、全ての世代が、つまり日本人皆が当事者として対処することが求められているのです。

《保健師として、保育にも携わる赤田さんの感想》

「今の保育園は行政による措置であり、保育力に欠ける人が入るといふ考え。しかし、保育が本当に必要な人が入っていない。必要な人が使えるシステムが必要。」という言葉が印象に残りました。本当にその通りであり、もっと保育園に入るのが当たり前の社会であれば、母親がこんなに苦しむことがないのに、と思います。馬居先生のお話を聞いて改めて日本の問題を感じ、仕事と草の根活動の両面から頑張る女性の支援を推進していく誓いをたてました。

今ある現状を受け止め、変えるべきものを変え、負担の配分をしていくことが重要です。



文責：赤田、椎名